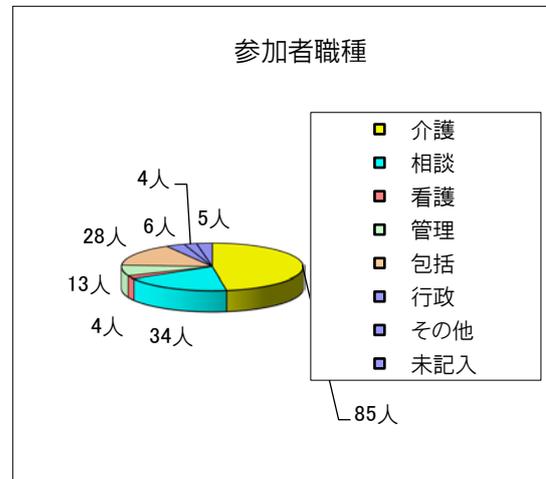


平成31年3月15日

参加者 187人
提出者 172人 91.9%

1. 参加者職種（複数回答）

	人数	割合
介護	85人	47.5%
相談	34人	19.0%
看護	4人	2.2%
管理	13人	7.3%
包括	28人	15.6%
行政	6人	3.4%
その他	4人	2.2%
未記入	5人	2.8%
合計	179人	100.0%

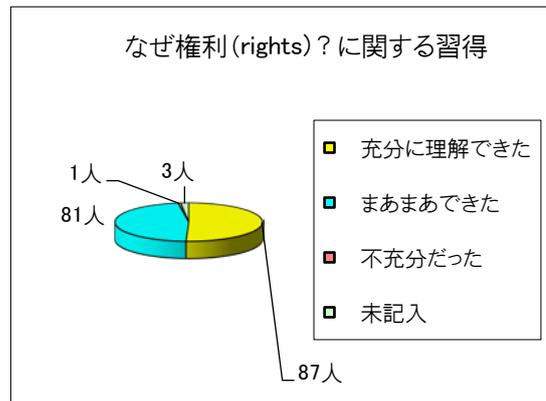


その他 介護支援専門員 社会福祉協議会
医療 等

※ 複数回答者 7人

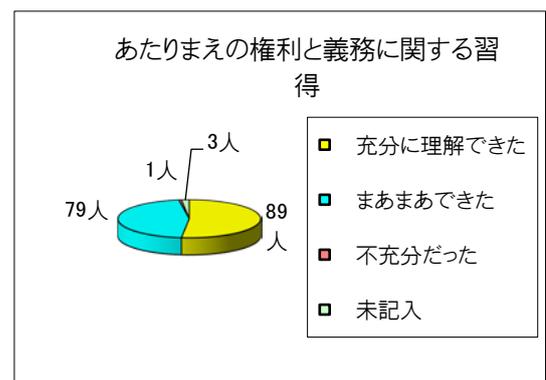
2. 受講の振り返り① なぜ権利 (rights)? に関する習得

	人数	割合
十分に理解できた	87人	50.6%
まあまあできた	81人	47.1%
不十分だった	1人	0.6%
未記入	3人	1.7%
合計	172人	100.0%



2. 受講の振り返り① あたりまえの権利と義務に関する習得

	人数	割合
十分に理解できた	89人	51.7%
まあまあできた	79人	45.9%
不十分だった	1人	0.6%
未記入	3人	1.7%
合計	172人	100.0%



2. 受講の振り返り②

1 「権利」（人としてのあたりまえのこと）についての講義・演習によって得たことは何ですか。

- ・ 日常のケアに対しての振り返りが出来たと思います。
- ・ 権利の中でたくさんの考え方がある中で、入居者に思いやる心。もし自分がこうだったらどうか？どんなふうに捉えるのか？など考えさせられました。
- ・ 権利について気を付けながら業務にあたっているが、あたりまえのことを見落としていることもあったと思うので、今日のことを思い出していきたい。
- ・ あたりまえに誰でも権利が有ることは理解していたつもりだったが、「権利」「普通」の奥深さを知った。
- ・ 支援者が支配したり、支援を受ける人が依存的になったりと自立支援の面で成り立たなくなったならば、最良のケアも困難であると思います。
- ・ 理解していたつもりが反省すべき点が多々あったと感じられた。慣れ合い、忙しさにまかせず、個人の方として、きちんと向き合っていかなければならないと感じた。
- ・ 一人の人として尊重されたいのに、相手のことは尊重していないということを振り返りました。
- ・ 消極的な側面については、決して侵害されるべきではないと強く感じました。
- ・ 私たちは「利用者のため」と言いながら、私たちの思う方向へ導くよう無意識にしていたのではないかと、思った。
- ・ 普通⇒実は難しい。自分を知ろうと思った。慣れ=キケン！！
- ・ 人間としてあたりまえの憲法上の権利であることの意識をうすくしてはいけない。
- ・ あたりまえの事について自分の経験に基づいた考えが出来てしまっていたので、改めて学ぶ機会を得られて良かった。
- ・ 普通の状態を日常生活の中でいかに保つことができているのか、という点については、福祉サービスを利用している状況下では、限りなくあたりまえの普通の状態になる関わり方をすることが、専門職としてのあたりまえだということ。
- ・ 「個人」との関わり方、「言葉」、「あたりまえのこと」をいつも考えながら支援し、権利の大切さを考える。
- ・ 自分がイヤだと思う事、してほしくない態度等は、相手に無理を押しつけたりせず、相手を尊重する、普通に接する事。
- ・ 経験をつんで、道筋や方向性、答えがすぐ出されることが良いことで、本人のためになると思っていましたが、そうとは言い切れない。ベテランになりすぎないことが大切、と新たな考え方を得られました。
- ・ 「普通」という感覚を持ち続けることの大切さを理解することができました。「普通」であることに気付かないことが危険であり、本人側に立って考えることが大事であることが分かりました。
- ・ 措置から契約になり、権利が守られなくなっている事がある。権利にも2つのタイプがある。
- ・ 権利という言葉で考えると難しく感じますが「あたりまえのこと」として捉えると具体的に考えられます。
- ・ 今まで権利ということをあまり知らずにいたことが分かった。人として普通に生活していけるよう施設で考えていかなければいけないと感じた。

- ・「普通」ということの意味。「普通」ではない中にいると「普通」が麻痺して分からなくなる。気が付かない情報になっていることがあることについて、よくわかりました。
- ・リスクを考えて、本人の出来る事を出来なくしてしまいがちになっている。権利＝普通
- ・公法上の権利について聞いたことで、近年感じていた権利意識の違和感に気付くことができた。
- ・「あたりまえ」の大切さを再確認できた。自分にとっての普通が相手の立場になった時、どうなるかをよく考えて対応していくことが大切と感じた。
- ・あたりまえの権利は全員が持っている。普段のあたりまえの事を支援させて頂いている利用者様一人一人に対して、対応できていたか？考えるきっかけになった。
- ・人が生まれながらにして持っている権利と、権利と発生する義務、その違いについて学ぶことができた。
- ・自分が考えている普通と人が思っている普通は一緒ではなく、普通の状態を守るためにケアを提供することが大切だ、と思い学びました。
- ・〇〇されたくない、されない、〇〇したいが守られる。→普通が守られる。
- ・専門職として利用者に対応な関係を常に考えることの大切さを感じた。
- ・「権利擁護支援」と言いつつ、本人のできないところしか見ていなかったと感じた。できるところ、できないところを見極めたうえで、できない所を手伝うという心持ちが大切だと感じた。
- ・“人のあたりまえ” のことと言われれば、分かったような気持ちになるが、よく考えてみると分かっていたいなかったり、気づけていないことが、いっぱいあることに気づきました。
- ・権利には、私法上の権利と公法上の権利があることを学んだ。
- ・“普通” とは、“～されない” ということが守られる消極的な側面と“～したい” ということが守られる積極的側面で構成されていることがわかった。
- ・改めて、あたりまえの権利は何か、と考えると難しかった。ふだんの普通なことが権利。
- ・利用者の為と思っていた事が、自分たちの都合となっている時があった。
- ・権利擁護とは、権利が侵害されていることを防いだり、侵害された状況から救うというイメージを持っていましたが「～したい」という積極的側面もあるということを知りました。
- ・本人を交えた話し合い、会議をすることで、個人の尊厳を守り、自己決定の支援につながる。
- ・高齢者になっても若い時の生き方が出来るという事。人間として生きていけるという事。
- ・権利→人としてあたりまえのこと、ということ自体、なかなか普段の仕事をしている時には気付かないものだった。
- ・あたりまえであるが、職場の暗黙のルールに従っていたことがあった。自分自身の感覚が麻痺し、適切な対応ができていない場面が多々あったと感じた。
- ・虐待対応など権利の消極的側面ばかりに目が向かいがちですが、本人の志向、思考、嗜好など積極的側面に、より目を向ける必要があると思いました。
- ・「普通」であることの重要性を感じました。「普通」とは、常に考えて生活していくことが今後の課題になると感じました。
- ・人として個人個人のあたりまえは違うということ。自分のあたりまえを押し付けないようにしていきたい。
- ・「普通」を意識すること（あえて）
- ・「私」の意味ではない「本人の」意思。
- ・方向性の話し合い(対話)の大切さと難しさ。
- ・いいケアをするには、関わるスタッフを大切にしたり、尊重すること。
- ・私法上の権利と公法上の権利がそれぞれあるということ。

- ・憲法上の権利を意識することが大事であること。
- ・人として、あたりまえのことができるような環境や受皿が必要ということを地域に広めたいと感じました。（押しつけにならないように）
- ・権利の考え方, 再認識できたことが得たことです。
- ・普段使っている普通という事は, とても難しい事だと改めて感じた。権利も消極的な面と積極的な面がある事も分かりました。
- ・契約型福祉になって久しいですが, 確かに, 収入や財産の差が福祉の格差につながっていると思いました。
- ・志向, 思考, 嗜好の尊重。個人の尊厳の尊重。
- ・権利擁護とは, 「普通」であること。1. ～されない, 2. ～したい 判断能力が低下している場合は, 意思決定支援が大切。
- ・いいケアの実践からは, 権利侵害や虐待はおこらない。
- ・「普通」とは何か, 改めて振り返るきっかけとなりました。パターンリズムな介入と権利侵害の見極め(見分け)のバランスが難しいところを感じました。
- ・“普通”は麻痺したり, 鈍感になってしまうコトがある, という話は考えさせられた。自分の価値観, 普通で支援しようとしてしまうが, それが間違っているかもしれないと時折振り返る必要があると感じた。
- ・「普通」ということの価値は, 消極的側面と積極的側面があって, 権利擁護は「普通」という状態を守ることで, 判断能力が衰えた時に間違ったことをしてしまったり, やるべき意思決定ができないので, 後見人が杖の役割となり, 意思決定をしていくんだなと思いました。
- ・消極的権利と積極的権利の2種類があり, 憲法で定められている。消極的権利がないがしろになっていること。13条や25条に示されている人間としてあたりまえの権利を大切にしていけることが重要。
- ・「権利」を考える時, 今まではその方を守る意味でしか捉えていませんでした。しかし「権利」の中には〇〇したいというように前向きなこともあるんだと改めて学ぶことができた。
- ・措置から契約へ移行するにつれて, 憲法に定められている権利ではなく, 私法に基づく権利が強くなり, そのせいでお金がある人しか自由に施設を選ぶことができなくなり, 結果, 権利は奪われてしまっていると知った。成年後見制度の代理権, 取消権について学んだ。その人にとっての「普通」は麻痺していく。都度, 自分の状態を考えることが必要。相手を経験なので支援しないよう, 一人一人を人間として捉える。
- ・その人の為と思っていた事は, 単なる「おせっかい」だったかもしれないという事。話し合いを十分にしていける事が大事。
- ・普通に関わっていたつもりだけど, ふり返ると, そうではない事もあったと反省させられた。普通って難しいと思った。過度な支援は, 権利の侵害なんだと学んだ。
- ・「普通」ということの価値を常に考えること。
- ・「～されない」（消極的側面）と「～したい」（積極的側面）が守られる「普通」を常に意識していくこと, 常に本人の側に立って考えられることが必要だと感じました。又, 一歩間違えれば, 権利を侵害してしまう危険が常にある事を理解していくことが大切。・「支援者として良かれと思ってしていることが, 本人の意思を尊重しているのか」というお話が心にささりました。
- ・一人の人を個人として見る。マニュアルや型にはめてしまうのではなく, “その人”として関係を築いていく。
- ・人としてあたりまえの普通が難しいことを再認識できた。ひとりの人として, 見て, 接する, 話し合う重要性を改めて感じました。

- ・あたりまえの権利として守られるべき「普通」は、消極的権利と積極的権利が満たされて初めて「普通」が守られることということ。バランス良く守らなければならない。
- ・今までは、ケアをする中で良かれと思ってやっていたことは、相手にとっては本当に良いことだったのかを考える時間だった。あたりまえと思っていたことは、本当にあたりまえなのか考えたい。
- ・現場にいと、入居者、職員と長い付き合いになり、何が普通かということを考えることがなくなっていったので、今日のセミナーで「普通」とはということに対し、考え、意見交換などができたことがとても良かったです。
- ・権利という言葉に関しては、大まかに理解しているつもりではあったが、再確認していくことで理解しているつもりだということが分かり、良い経験となった。
- ・自立の権利 リスクを考えて車イスを使用してしまう・出来る事まで手助けを行ってしまう等、介護・支援者が利用者の能力発揮を妨げてしまう事がある。良かれと思ってやっている事が一歩間違えれば個人の権利を侵害してしまう事につながる。
- ・普段業務の中でも、利用者さんに選択・決定をしてもらうことを意識しているが、それはあくまで自分の考えや自己満足なことで、利用者さんの権利や普通なことを考えていなかったんだなと思った。
- ・言葉で「権利」と簡単に言っていました、実際講義で権利について学び、今まで自分が思っていた権利の意味は、一部だったことが分かりました。
- ・あたりまえとして仕事をこなしているが、ふりかえりは大切だと感じました。普通をどのように感じるか考えます。
- ・“普通”という普段意識していない事について考える事ができた。「普通」は「あたりまえ」であって、「あたりまえ」は実はとても難しい事。自分の「あたりまえ」はできていても、人のあたりまえには考えが及んでいなかった事もあった。
- ・元々持っている権利について、相手の立場に立って考える事、テクニックではなく関係性、常に意識していかななくてはいけないなと改めて感じました。
- ・普通とは何か、自分自身が普通に思う事が、実は麻痺しているのではないかと思い返しました。
- ・他人に生き方を押しつけられたり、支配されるのではなく、自ら決定していくこと。生まれながらにして、健康で文化的な生活を送ること。
- ・「相手を型にはめた捉え方をしない。その人の生活の仕方、考え方を知り、その人にとっての普通の生活を支えていく。」→自分の役割を改めて考えさせられました。
- ・権利擁護の活動を行う時に、普通とは何か、常に自分に置き換えて考えながら、支援をしてゆきたいと思えます。強く感じました。
- ・気づかぬうちに支援者が支配的になってしまう事。支援者がその人のためのと思うことも、本人の立場だと違う。そこに気づかないでいることの怖さ。
- ・「普通」生活する。公法上の権利が弱くなってきている。
- ・会話ではなく対話。関わるスタッフが大切にされることで相手を大切にできる。
- ・「普通」の関わりが大切なことが分かりました。どうしても「特別」な見方、考え方をしてしまっていた感じがあります。
- ・権利は、措置型から契約型に転換したが、意識は高まっていない。権利侵害を守り、本人が何がしたいかを助けることが大切。麻痺は怖い。
- ・権利であるという「範囲」。そうか、範囲はないことを知った。
- ・一定の活動を許されることが権利(何かをするコト) 意思決定ができる人に対して、やってしまうコトはおせっかいしかない。権利→主張であって、ワガママではない。

- ・自分のことは自分で決めると言いながら、利用者に対して、果たして自己決定尊重をしていただろうかと気付かされた。
- ・目に見えない物をどのように使のか、本当に難しい項目ではありましたが、ご本人様が何をしたいのか、守り、意思決定を行っていただける様にケアをしていかなければならない。その為にも「普通」を考えないといけない。過度なおせっかいは本当にいらぬと思うので、ご本人様の立場に立って考える事が大切。
- ・大変良い講義、ワークでしたが、難しいお話も多く、十分に理解できないように思います。今後の活動の中でまず意識していきたいと思います。
- ・あたりまえの事があたりまえにできなくなってしまう事の怖さを感じた。それが慣れから来る事も分かったので、気を付けていきたいと思った。
- ・権利について積極的な側面、消極的な側面があることを知った。どうしても消極的な所に目を向けがちではあったが、その人のできる意識決定の手助けが支援者に求められている部分だと学んだ。あたりまえのことが、その人たちに出来るように支援者が見極めることも大切だと学んだ。
- ・権利に(対価としても)の義務が伴うのか？ということが深く心に残った。公法上の権利として、権力の傘から国民の権利が守られなければならないわけで、あたりまえの権利として、支援者は利用者に対して接していかなければならないと改めて感じた。
- ・権利というものを、しっかりと考えずに生活していたことが分かった。
- ・病気や加齢により一人でできない事が出てきても、手助けをしてもらって行う事があたりまえである事。
- ・自分の権利を主張しても、他人の権利も当たり前であるという事を忘れがちになっていることに気づかされました。
- ・講義を聞いて利用者一人一人に対して意思決定を促しているかを考えさせられました。また一人の思いをスタッフと共有、チームケアに結びつくことに気づかされました。
- ・普通である事、自分の感覚でしか普通を捉える事ができておらず、ご本人(利用者)の普通を考えていなかった。
- ・普通に関わることの難しさ。利用者様には普通にしてもらいたいが…。
- ・普通とは、～したいがどう満たされているかが大切であることが分かり、本人側に立たなければ気付かないことがと感じた。
- ・「普通」という事がいかに大切で、また難しいかを学ばせていただきました。確かに今の施設での生活は、普通なのかと考えた時、自分達の感覚が麻痺してしまっている部分が多くあるように感じました。今回それに気付けたことが一番大きい事でした。
- ・権利＝普通のこと。消極的な面と積極的な面がある。先生の講話を聞いて“普通のこと”が麻痺していく怖さを感じました。本人側に立つことの大事さも改めて感じました。
- ・普通とは何か、普通であれ！誰もがもっているもの。類型化(無意識に)してその人、そのままを見失ってしまうことがある。
- ・権利には2種類あり、積極性(～したい)と消極性(～されない)、これが2つとも揃って初めて「普通」である、ということ。常に本人主体であるべき事であるも、それが達成されない箇所もあるので？自分の現場で改めて考えてみたいと思った。
- ・「普通」とは何かを考えていくこと。相談を受けた時や利用者に対して、類型化して対応していないか、自ら普段の業務を考えなおすことが必要だと感じました。
- ・権利という言葉を噛み砕いていうと、法律では許されている人間の活動ということで、その権利を尊重するために私たちのような専門職の介入が必要であることを学んだ。しかし、本人を気づかってい

るフリをして。こちらのやり方を押し付けてしまうことにはならないよう、一人一人を見つめることが大切であることを学んだ。

- ・麻痺しないように『普通』（あたりまえ）って何、と振り返る時間なり、機会を作ったほうがよいと考えた。
- ・権利に対して、いつもフラットな考えで、権利に対して麻痺しないように気を付けていく。
- ・「あたりまえ」も「権利」も改めて、言葉にしたり、それを説明しようとする大変難しく感じました。
- ・権利擁護の必要性和、それについての理解を改めて深く知ることができて、とても良かった。また普段あたりまえと思っていたことが、あたりまえと勘違いしていたのではと考えさせられました。
- ・現有能力の活用。権利侵害からの救済と代理。「その人の為に」が虐待につながってしまうこと。
- ・同じことばかりしていると麻痺していることに気がつかない。スタッフ自身が大切にされていないければ、いいケアにつながらないことを学びました。相手の立場での思いはあっても、常に対話することにより、スムーズにできる環境作りも必要だと感じました。
- ・常に相手の立場に立って、物事を見たり考えたりするという事を大事に考えているものの、今回改めて普通の状態を守る大切さ、普通という言葉だけでは簡単なように思えるが、とても奥深いものである。
- ・普通が麻痺すると伺い、自分の利用者様への言葉遣いが少しくだけたようになりがちなので、利用者様と接する時にどうすれば良いのか考えて関りをもちたいと思いました。
- ・特別なことではなく、その人をそのまま受け入れることが普通なんだと理解できた。
- ・「普通」の価値について、学ぶことができた。消極的側面と積極的側面があって、普通ということが分かり、大変参考になった。
- ・普段「権利」という事をあまり意識してこなかったように思える。本人のために良かれと思っていた事、自分自身の立場に立って考えてみると、常にこれでいいのか等考えてチェックしていく事が大切。
- ・普通に対する認識。本人のためと判断し、実践したところで、場合によっては、その方にとって普通の権利が守られなくなる。
- ・何気ないことの重要性を感じました。生活していることの中や、仕事をしている中での「普通」「あたりまえ」の捉え方を改めて確認できた。
- ・自分自身の「普通」が本当に普通なのか見つけ直す機会を持ちたいと思います。
- ・普通とは何か、いつも話し合える事を意識したいと思います。
- ・私法上の権利と公法上の権利、元々もっている公法上の権利を指していることが多いが、権利が薄れてきているのも確かなこと。
- ・「普通」「あたりまえ」と一言にいても、自分の普通と相手の普通は必ずしも同じではなくて、その人その人で考え方が変わってくるので、こちらの「あたりまえ」「普通」を押しつけてはいけないと改めて感じた。
- ・講義を聞いているうちに、初めは“自分は権利の侵害をしていないはず”と思っていたのに自信がなくなりました。自分が気づけていなかったのかもと、気付く事ができました。
- ・サービス契約の権利と法律で言っている権利の違いがよく理解できた。主体が「自分」にある時、「相手」にある時で認識が変わると思った。
- ・「普通」という事の価値を改めて認識した。
- ・私法上の権利と公法上の権利が混同されていた。特に公法上の権利を日々かわりの中で意識していきたい。

- ・一人一人の権利を尊重していく事は大事なことだと思った。
- ・「～されない」とことだけではなく、「～したい」という側面が合うことで「普通」であるということ。それを支援する役割が支援者である私たちにあると改めて実感した。
- ・その人個々があたりまえの普通の生活を送るために、ご自身がどう考えているのか、どうしたいのか聞く姿勢を持つことが大切と感じました。
- ・～される事から守られるだけでなく、～したいという欲求を合わせて、普通の暮らしを送るという事が人の権利であるという事を再認識し、ふり返ることができました。
- ・権利は生まれながらにして本来皆持っているものなのに、何かの、誰かの行いで失ってしまっているのも真実なのかなと思いました。「自分は自分は…」となることはあたりまえですし、それはどんな人にも共通するものです。このことを念頭に置いて、押しつけない話し合いをしていきます。
- ・「普通」という事を常に考え、その「普通」ということを「普通」に対応すること。
- ・権利の意味には、色々あり、生まれながらに持っているという事を知りました。また権利擁護の普通という事がいかに大事かも知りました。
- ・「普通」「あたりまえのこと」という内容について、納得しながら講義を受けていました。ですが、自分を振り返った時に、「今まですべてきちんとできている」と言えないことに気づきました。
- ・普通のこととして尊重されるべきもの
- ・「権利」や「普通」について、漠然としたイメージは持っていたものの、具体的にどういった考え方が、ということが分からなかった為、学ぶ良い機会となった。仕事だけでなく、日常のあらゆることにも当てはまる部分があると感じた。
- ・支援する側も受ける側にも権利は有るということ。対人援助における関係性について。
- ・普通の感覚が麻痺しないように、本当は何をしたいのか、されたくないのかを相手の立場になり、話し合いながら探っていかなければと思いました。
- ・日頃、自分の施設では、どうだろうかと頭に思い浮かべながら、話を聴かせて頂いていました。反省、失敗していたなと思う所もいくつもあり、「普通」という事が簡単なようで、様々な立場として考えた時、難しいこともあるのだなと思った。
- ・分かりやすい説明で十分理解することができた。実践となると自信がありませんが、せっかくの講義をケアの中で活かしていきたい。
- ・自分のことは自分で意思決定し、サービス提供者、支援的な人たちは、それを尊重しなくてはならない。
- ・権利擁護とは普通であるということ。普通であることすら守られていないのは、権利が守られていない。
- ・消極的側面や積極的側面がある。
- ・スタッフを大切にすることが、いいケアにつながる。
- ・普通であることを守ることが大事である。意思決定の手助け・救済が大切。常に相手(本人)側に立って考えていく事が必要。
- ・自分がしていることが普通？麻痺？している。これは、気付かされて良かったと思う。業界年数が多いのも善し悪しだ。
- ・権利と義務、「普通」という事の価値について改めて考える機会になった。一人一人を尊重することは、地域住民に対してだけでなく、職場の人間関係にも必要な事。
- ・本人の～したい、～されないということを実現するための制度があること。
- ・自分の普通が人の普通とは違うこともあり、周りにも意見・確認していくこと。

- ・権利というのは、目に見えないけど、頭で思ったことを表にあらわす事。権利には義務が伴うとよく耳にしますが、どういう意味なのかを分からないまま過ごしていました。今回の研修で、例題もあり分かる事ができました。普通は考えなくては麻痺してしまう、というお話は、とても共感しました。
- ・お金があってもなくても、判断能力があっても低下していても、本人の志向や思考、嗜好を尊重すること。住み慣れた地域で生活できることが大前提。
- ・「普通」とは何か。自分の「普通」を振り返ることが必要。
- ・私法上の権利と公法上の権利について、知ることができた。普通というのは、どのような状態であるか、客観的に気づく機会になった。
- ・権利を使えることは、同時に義務が発生する。人としてあたりまえのことは、人によって違うし、権利を奪ってはいけない。
- ・一人一人を尊重することは中々難しい。いかに個人と向き合い話し合っていくかが重要という事が身を持って分かった。
- ・権利について、講義では理想を述べるのみで非現実的！演習では、色々な意見や考え方、実例が聞けて良かった。
- ・お金のあなしに関係なく、意思決定支援の必要性。ご本人のできることも代行してしまう事は、支援ではなくなる。
- ・考え方は様々であること。
- ・私法上の権利と公法上の権利の違いを知ることができました。
- ・「普通」「あたりまえのこと」が守られているか意識する。〇〇されたくない、〇〇したい、相手側に立って考える事が大切。
- ・権利擁護とは「普通」の状態を守ること。
- ・あたりまえの権利と再認識した。権利という言葉を理解していきたい。
- ・あたりまえは元々難しい事と捉えていました。絡まった毛糸の玉みたいな。でも毛糸の糸が少しほぐれた様に思えました。日々の仕事の疑問への解決法。
- ・ひとくくりに権利といっても、私法上の権利と公法上の権利があり、権利擁護を考える時は、公法上のことを意識することが分かった。「本人のため」という名目で支援者の都合で進めていないか、常に振り返る必要がある。
- ・よく職場や系列のSWから、SWは権利を守ることが仕事だと指導を受けていたけれど、肝心の「権利」の中身まで自分は理解できていなかったと思う。学生時代にCLの力を信じなさい、力を持っている人として見なさいとも指導を受けたが、段々と指示的になった支援になっていたように思う。
- ・会議・カンファなどに本人・家族を呼び、一緒にケアプランの作成をしていく事で、もっと信頼を得られるのかなと思いました。
- ・社会の中のあたりまえの事を施設内で行えているかどうか、すり変えて聞いてました。
- ・簡単に権利という言葉を使用してしまいますが、契約による権利ではなく、国として権利についてもっと勉強しようと思いました。
- ・ご本人のしたい事、やりたい事、権利を取り上げることがないようにする。
- ・何となくは理解していましたが、法の視点からの詳しい説明で、文字で理解できたのでよかったです。
- ・あたりまえは、有難く幸せな事である。
- ・相談業務の中で大切な部分の再認識をすることができた。しかし、日頃より権利とは？普通とは何かということ意識していかなければならないと感じた。
- ・普通という事を再認識することができました。

- ・今までの自分はどうかだったのか？と自問自答しながら、共感し、これからの日々のケアに活かしていきたい。介護の仕事が長くなってきたので、初心に戻り、また他の施設の方々の意見も聞けたので、良かったです。
- ・本人の状況や意向などきちんと考慮しなければいけない。判断能力が落ちた＝代理をつける、成年後見人がついたから全く決められないではなく、その人の状況を見極めていかないといけない。
- ・やはり根底には意思決定支援があり、言語化された部分のみならず、様々な場面においてポイントを見つけ、それで繋いでいく必要があると感じた。

2 得たことを実践でどのように活かそうですか。

- ・念頭において仕事をする様にしていきたい。
- ・毎日、仕事をしている中で、本日学んだことを基に、サービスを提供していこうと思いました。
- ・一個人として型にあてはめずに対話し、支援の方向性を検討していきたい。
- ・本人側の立場で「普通」とはどういうことなのか、自分のものさしで計らずにいくこと
- ・利用者ができる事、できている事を見極めて、本人の意向に沿った支援をしていきたいと思います。
- ・マニュアルの確認と整備を行い、研修報告会を設け、改めて「権利」についてスタッフ間で理解を深めたい。
- ・一人一人と対話をしながら（尊重しながら）、自分で決めていく場を作っていきたいと思います。
- ・活かしていかなければいけないと思います。
- ・全ての人がひとりの個人として、普通の生活ができるように対話をしたい。対話の中から、その人の思いや考えを知り、決定できるようにしたい。
- ・まずは自己覚知。自分がやられてイヤなことは相手にもしてはならない。
- ・職場の仲間を大切にする。人として人を見ることが普通であることを理解する。人を大切にすれば、された人もまた、人を大切にすると思えました。
- ・相手の立場や意志を尊重して関わっていける事で、権利を守っていけるようにしたい。
- ・他の包括や行政、関係機関と共有したいので勉強会が行えるよう、学びを深めようと思いました。
- ・受容して、現状を考えながら支援したい、「個人」を尊重して、いきたい。まずは、礼儀からでしょうか・・・。
- ・相手を認め、普通に生活できる様を手伝っていきたい。
- ・まずは相手を型にあてはめず、よく知ることを心がけたいです。また、自分の考えを、他スタッフに聞いてもらって、確認していきたいです。
- ・自分だったら・・・と置き替えながら、自己決定支援をしていきたいと思いました。
- ・本人の意志決定がしっかり尊重されるように支援する。
- ・ユニット内で職場一人ひとりと話し合い、個別性や尊厳について理解を深めていきたいと思います。
- ・もっと対話を多く行うことで、一人一人の考えを尊重し、今まで押し付けてしまっていたことを繰り返さないようにしていく。
- ・金銭感覚や、ふだんの人との関わり方で、利用者さんの権利侵害に早く気付いて対応できるように気をつけていきたいと思いました。
- ・前例はあくまでも参考として、個々である本人の支援について考える意識を持つことを忘れないでいきたい。
- ・本人の声を聞き、実現出来そうな事を一緒に考えていく。どうしたら実現できるか、話し合う。

- ・ アセスメントや目標を立てる時に、本人の生活が「あたりまえ」に過ごすことができるよう、気をつけていく。
- ・ 現場での行動や言動を気をつけていきたい。
- ・ 当施設は古く措置制度の時のような考えが根強く残っている。利用者の権利、あたりまえの権利とは何なのかと、施設全体で考えていきたいと思っています。研修内容、資料を基に、施設研修し、少しでもよい施設に近づけるようにしていきたいと思います。
- ・ 利用者さんが何がしたいのか、何をされたくないのかをまず知り、権利を尊重出来る関わり方、仕事を心掛けていきます。
- ・ ご利用者の尊厳を尊重し、住み慣れた地域で長く生活ができるように、お伝えしていきたいと改めて思いました。
- ・ ご利用者の残存能力をもっと活かして頂けるよう、工夫準備を明日からしたいと思いました。
- ・ 一人一人の利用者と向き合う時に「自分が対応してほしい態度」や「支援の仕方」を考えつつ援助を実践していきたいと思う。
- ・ これからは、本人のできることにまず目を向けるようにしたい。
- ・ 権利侵害を自分も知らず知らずしていることに気づきます。「あちら」の話ではなく、「こちら」の話であると、我が事として考え、職場でも、今って「その人をコントロールしようとしてた？」とか、「話し合っけよう」など、普通に話しがあるといいと思います。
- ・ ”普通”の状態を守るために、必要な制度の活用などを促進していきたい。自分自身が権利侵害をしないかを常に自分に問いかけていきたい。
- ・ 利用者のあたりまえの権利を奪っている気がする。決定権もほぼスタッフ。
- ・ 本人側に立つ事で、考える事が出来、個人を尊重する事ができるようになりたい。
- ・ 「～したい」という積極的側面からの権利擁護を行うことができるように、成年後見の利用を検討する際にも意識をしていきたいと思いました。権利擁護といつつ侵害するケアになっていないか、常に振り返りながら業務にあたりたいと思いました。
- ・ リスクもあると思いますが、そのリスクを説明しながら、本人と話し合い、その人の能力に合わせた支援ができると良い。
- ・ 自分の行動を見直す、いい時間であった。
- ・ 難しく考えず、常に「普通」とはどういうことかを問いながらこれから仕事に活かしたい。
- ・ 現在の職場において実践できていないことや足りていないことを振り返り、ピックアップする。それらを職員同士で意見交換することで、再認識させていく必要がある。
- ・ 自分で判断することが難しかったり、意志の疎通が難しい人が多いですが、最期まで権利を使うことができるように支えていきたいと思いました。
- ・ 何が「普通」で、何が「普通」でないか、「普通」になるにはどうしたら良いか、一人だけで考えることなく対話することが今後の業務につながると感じました。
- ・ 提案することは大事だと思うので押し付けにならないように方向性を導いていきたい。
- ・ 自分のことは自分で決める＝あたりまえ。まわりや家族が決めることではない。もちろん判断力を評価する（できる）目も必要でも、それすら偏って見ていないか？訓練がいりそう。
- ・ もう少しスタッフの話しを聞いたり、大切にしていこうと思った。
- ・ 本人の出来る事、したい事を考えながら、常に本人側に立って支援する姿勢を持っていきたい。
- ・ 今回の「人としてあたりまえの関わり方」について、住民さんを中心にする、周囲の支援者（包括、CM）に対して、ヒートアップしがちですが、支援者同士でも、良好な関係を築くことができるよう対話したいです。

- ・普通の生活が守られるように支援していきます。
- ・本人と対話することが十分できていなかったと気付かされました。本人を交えたカンファレンスなどの時に、今日学んだことをいかしていきたいと思います。
- ・話し合いを行い傾聴, 対話, 尊重についてつなげていく。
- ・認知症においても, こちら側で決めるのではなく, 意思決定をお手伝いする。
- ・本人の自己決定を尊重する。選択肢を伝え説明し, 本人に決めてもらうようにする。状態等が変わった時等, その都度対話する機会を作り, 今の状態に合ったサービスを本人に決めてもらうようにする。
- ・業務を行うなかで, 「普通」を立ち止まって考えてみる。本人の状況を問わない, その人そのものを見て尊重する姿勢をしっかりとつ。
- ・色々な職種, 自分の事業所のスタッフ間他, 話をし, ”自分の普通”はおかしくないかを考える機会を作っていきたい。
- ・普通なのかを常に考えるようにして, 本人の側に立って物事を考えていきたいと思います。
- ・ご利用者との関係性, ご利用者がどのように考え, 何をしたいのか, その気持ちを尊重していくことを常に頭におき, 支援に携わっていきたい。
- ・日々の利用者さんとの関わりの中で, 「眠っている権利」というのは多くあると思います。一人ひとりが想っている〇〇したいという事を, 私達は実現していきたいと思います。
- ・介護現場で相手一人一人を見てその人に合った支援を行いたい。
- ・一人の個人として対応し, コントロールしようとせず援助して, あたりまえの生活を送って頂くようにしていきたい。
- ・話す言葉に耳を傾け, 何を求めているのか一緒に考える。
- ・専門職として果たすべき役割を確認する。
- ・業務を行う上で, 普通とは何かを意識しながら対応していきたいと思います。又, 自分から話を聞き対話をするをすすめていきたい。
- ・実際に関わっているケース対応時に, 対話しながら本人の希望を改めて確認したいと思います。
- ・日々の生活の中から選択していく場面は多くあります。選択・決定する機会を対話によって導いていければと思います。
- ・会話ではなく対話をしていきたいです。
- ・利用者一人一人の権利について, 各職員が気付きを持てるよう, 復命していきたい。利用者のみならず, 職員同士で尊重し, チームケア力を高めていきたいと思う。
- ・働いていく中で, 自分の都合ではなく, 相手にとってはどうなのかを考えながら関わっていきたい。
- ・一人一人の思いを大切にしながら, 会話を増やし小さなことでも希望・要望を聞きケアをしていこうと思いました。その方の目線に立ち, 気持ちに寄り添っていきたいです。
- ・特に利用者に関わる上で活かしていく。
- ・介護者からの思い, 視点ではなく, 利用者からの目線で考える。「普通」を常に考えていく。押し付け, 管理は行わない。施設内のあたりまえを取り除く。
- ・自分は個人として見られたいのに, 利用者さんのことは一括りにしていた部分があったので, 自分に置き換えて考えていきたい。
- ・利用者一人一人の権利を大切に接していきたいと思います。礼儀と尊重は, 職員や利用者のほか, 家族にも, 行わなければならないと思いますので実践していきたいと思います。
- ・訪問時(利用者宅)で一人の人として何を思い, 何を考えているのか, 観察していきたい。

- ・意識する事で、権利の侵害を予防する事ができる。一方的な会話ではない「話し合い」をする事を心がける。
- ・「話し合い」をきちんとする事。ケース1つ1つの背景も含め、しっかりみて行こうと思いました。
- ・あたりまえの事を言っているという事を念頭に置き、その方の主張を受け入れたいと思います。
- ・個人を尊重して、グループ・パターン化せず対応していく。
- ・本人との会話の仕方や関わっている人達へ、本人の考えを伝える必要性を学び、業務に活かせると思いました。
- ・”普通”とは何かという事をスタッフに対して伝達して、いきたいと思います。利用者に対して、普通の生活権利を侵害しないように広めたい。
- ・今一度、自分自身の支援の姿勢、相手の意思決定を無視していないか、振り返りながら仕事をしたいと思いました。
- ・本人の意志尊重の為、話し合うことの重要性。
- ・職員同士の話しでも言葉に気をつける。
- ・本人のアセスをしっかり行い、話し合いを行って、いきたいと思いました。
- ・自分のものさしで判断する事なく、携わっている人達と情報交換や意見を交換し、方向性が合っているか、確認しながら、対象に応じた援助を行っていく。
- ・自分を知り、相手を知ろうとする気持ちを高めたい。そして介護につなげたい。
- ・一人一人との会話、対話にて、相手が思っているコト、考えているコトから、意思決定していく。言える人が有利であって、言えない人が不利ではないコト。
- ・当事者性を意識しながら、支援にあたっていく。
- ・対象者それぞれ、支援内容が違うこと。
- ・現場スタッフと話し合いの場をもちながら、共有していきたいと思った。
- ・現場にて1つ1つの課題に対して「これでいいのか？」とチェックし、振り返りを行うくせをつけたい。
- ・相手の気持ちを尊重する。話し合いをする。
- ・スタッフを尊重する事が利用者を尊重できるようになるという話を聞いて、すぐに活かせると思いました。話し合いの時間をもっと増やしていきます。
- ・尊重、礼儀を持ち接すること。言葉遣いからまずは見直していきたい。話し合いをする時はその人抜きで行うことが多いため、その人が参加できるような取組みをしていきたい。
- ・余裕をもって、接していきたい。経験=テクニックにならないよう、一人一人の利用者に寄り添っていきたい。
- ・自分の権利と相手の権利があることを意識して、「あたりまえ」が麻痺しないように注意したい。
- ・あたりまえの事をあたりまえにできる様に、という視点を忘れずに支援に当たる。
- ・活かそうと思います。
- ・自分一人だけの意見でケアせず、他のスタッフと議論し、その一人の利用者にとってよいサービスを提供したい。またその人の思い、計画（サービス計画）にその人その人の思い、議論した最善のサービスを立案することに活かせると思います。
- ・色々な人の普通を考える。
- ・スタッフには、一緒に考え伝えているが、管理者の考えが分からない為、研修の内容を説明する。
- ・本人側に立ち、考える。権利を職員に伝達する。
- ・自身が判断に迷った時等に立ち戻る。基本的価値としての活用。

- ・普通の生活がどういうものかを職員みんなで話し合っていきたいと思います。まず今回学んだことを伝えていくことから始めていきます。
- ・「本人のため」という間違っただ正義はやめて、本人の意向を聞いて、考えていこうと思います。また、一個人として対応をするよう改めて意識していきたいと思います。
- ・まずは事業所内で伝達。伝達する際に「普通を守る」ことを話し合いたい。
- ・内部研修 etc…で、権利について話し合う時間を作り、よりよいケアを目指すコトが出来そう。利用者一人一人が、元の生活と同等に極力近づける為に何が出来るか話し合う。それにより、利用者本人が自分であると云うコトに自信をもち、キラめくコトができるのではないだろうか。
- ・多様な相談を受け、支援していく上で、この利用者に対して、この支援が適切だったのか、振り返りを常に行っていくことを支援前、支援後、同僚と意見交換して、支援に対して意見をもらいながら関わっていくことが大切と感じました。
- ・家族からの要求が多かったり強かったりすると、本人の自己決定にはつながらないし、ただ本人の言われた通りしても”普通”と離れてしまうということもあるので、しっかりと話をきき、納得いくまで対話をしようと思った。
- ・普段から『普通』を考える。振り返ることにより、対人関係をひとり、ひとりとして関わられるような気がする。
- ・自分の価値観で、独善的な、押しつけ的な、権利に対する、固定観念を持たずに、やって行くべきと思いました。
- ・「自己決定を支援する」という事がいかに難しいことなのかを感じました。まずその人をそのまま理解しようとする事が大切なのかなと思います。
- ・自分の主観として観るのではなく相手の目線からどのように思っているのかを考えて介護出来ればいいのかと思った。
- ・類型化しない
- ・普通の権利を、あたりまえを考えて対応して、利用者様の立場でできるようにすること。経験にあてはめないようにしながら礼儀と尊重という態度をする。
- ・スタッフ一人ひとり
- ・利用者様への関わり方で〇〇な人は〇〇さんとか、裏でスタッフ同士言いがちなので、型にはめないで接したい。
- ・権利を知るために、質問しながら話し合いをしてみる。
- ・人と関わる上で、普通が麻痺していないか？という意識を持ち続けたいと思いました。→自分自身もそうですね。
- ・一方的に話し、決めていくのではなく、相手の声に耳を傾け話し合うという事。調整＝話し合い
- ・仕事をするにあたり、普通ということを常に考え、行っていきたいと思います。
- ・人に対しての向き合い方や対人サービスに活かせる。
- ・業務の見直し、日々のかかわりに活かしていこうと思います。
- ・少しずつ振り返りながら…やってみます。
- ・普通とは何かを常に考える必要がある。
- ・まず、相手の話を聞いて、その人の思いや考え方を知り、その人に合わせた支援をしていく。
- ・経験値で、マニュアルでひとくくりにケアする事がないように、一人の人として見ることを意識していきます。
- ・他者の立場が自分だったらということに迷う時、うまくいってないと思う時の振り返りの材料になる。

- ・利用者、職員をひとくりにせず、個人個人をしっかりと見ていく様に、それを前提にした話し合いをしていきたい。
- ・本人の権利を知らず知らずのうちに侵していないか注意する。
- ・ご本人不在で決定することがないようにする。
- ・本人の思い、意向をしっかりとその都度確認できる場を作り、支援者間で共有しながら、自己決定の支援をしていきたいと思います。
- ・生活上、不利益になりそうなこと、健康を害する事など支援者側の視点で方向付けしたくなることを、自ら決定できるための支援ができるよう考えていきたい。
- ・利用者さんへのアセスメントを行う際に意向の確認ではなく、その方がどうしたいとかという事を話し合、それをするためのメリット、デメリットを伝え、個人の思いを尊重する事ができるようになりたいと思います。
- ・面談の際に、「自分勝手な人」「その考えおかしい」と度々思っていました、その人にとってのあたりまえの理解を少しずつでもくみ取れればと思います。
- ・職場での伝達研修で振り返りをさせていただきます。
- ・今回学んだ事を今後自分の職場でも皆に知ってもらえるように広めていきたいと感じます。
- ・まずは、礼儀を忘れずに対応していく。一人ひとり、生活してきた環境、年代が様々であるので、向き合っていく事が大切だと感じました。それが尊重につながると感じました。
- ・その人も交えた話し合いの場を設け、みんなの中の一人としてではなく、“私（一人の人）”としてみていく。
- ・利用者様、ご家族様とお話しする際、その人にとってのあたりまえは何か、積極的側面でどんなニーズを持っているか、意識して考えながら関わっていきたい。
- ・自分と同じように相手にも欲求がある。何をしてほしい、どういうふうに関わってほしいか考えて関わっていきこうと思いました。
- ・本人が判断できないと決めつけずに志向・思考・嗜好を尊重して、一緒に探っていきます。
- ・まずは、現状で「ここはどうなんだろう？」と思っていた普段の光景の中の一つを、他のスタッフにも提示して、皆にも今一度「個人を尊重する」という事について考えるきっかけ作りに活かしたい。
- ・普通①されたくない事→改めて絶対しない。②してほしい事→その人の思いを少しでも叶えるようにその人をそのまま見ていく。
- ・家族からの要望が一番で、本人の意思をどこかおざなりにしていた感があった。家族の希望もあるが、お互いに納得できる解決策を目指す人もある。本人の気持ちを一番に考え、サービス提供に努めたい。
- ・入居者様の“普通”の生活が送れるように取り組む。そのためには虐待はもちろんしないこと、また入居者様のしたいことを満たしていく。
- ・自分がこうした方が良いと思っても、皆と話し合い、本人だったらどうなのか考えていけそう。
- ・自分だけではなく、他職員も同じような人がいると思うので、その職員にもこの話を聞かせてあげたい。
- ・「権利擁護」を実践する立場として、亡くなるまで「普通」の状態を守っていけるよう仕事に役立てたい。
- ・自分がズレているかもという思いをもっていくこと。
- ・本人の意志を尊重し、よく向き合うようにしたいと思いました。
- ・その人に合わせた支援を行う、自己決定できるよう支援していくこと、判断能力の低下がみられても全てを代理するわけではないという意識をもって仕事に取り組む。

- ・個人一人一人を見る。経験やマニュアルにあてはめないこと。
- ・業務の中で自己決定支援を行って頂く上で、その方の意見が尊重されているか、話し合いを行いながらできているか、振り返りながらできればと思います。
- ・一人一人の「普通」「あたりまえ」を相手の立場になって考えてみる。
- ・一人一人があたりまえの普通という事について、考えていきたい。今までしていた普通の事。
- ・不明。対話や話し合いは必要である。
- ・利用者ご本人の意志を尊重するようにしたい。
- ・相手がどう考えているかを考えた上で話し合いを行っていく。
- ・相手の意向を尊重しつつ、説明を行い決定いただけるように相談業務に従事したいと思います。話し合いを大切にしたいです。
- ・一人一人をみて個別対応を行う。自己決定ができるよう、手伝ってやるのが支援者としての役割。
- ・利用者への対応に実践していく。
- ・一人一人への対応が必要であり、意識して対応していきたい。
- ・分からないが、ひらめいた都度実践したい。
- ・「本人のため」と思い込まないように、本人の思いに耳を傾ける。周りとは相談し、独断で進めないようにする。
- ・その人の力をどう引き出すか、本人の意思はどうか。アセスメントしていきたい。活かそうか分からないが、活かしたい。
- ・スタッフと利用者が話し合い、少しでもしたい事など、100%まで出来ないが、近づけるよう支援していきたい。
- ・職場内で職員への周知。また、あたりまえの事って何かとロールプレイしていきたい。
- ・ご本人と話し合い、出来ることは見守り、出来ない事があっても協力していく。
- ・基本的な権利を全員が持っていることを忘れずに接していきたい。
- ・色々な人間がいるので、色々な対応も難しい。
- ・施設相談員として、施設内外のマネジメントを考える際、入居者、家族に対する支援や、良いケアのためスタッフへの関わりの中で、今回の学びを活かしていきたい。
- ・定期的に振り返る機会を持ちたい。時間が経つと薄れてしまうので。
- ・すぐには、こうだからこうしましょうではなく、少しずつ浸透して行くように、スタッフ間での話し合いで小出しにしていきたいと思います。
- ・その利用者のあたりまえ、普通って何なのか、他職員と話し考え、ケアで実践していきたい。

3 「権利」（人としてのあたりまえのこと）に関連して、更に学んでいく必要があると考えることは何ですか。

- ・普通は常に心におき、変化しながら普通とは何かを思いながら仕事に励んでいこうと考えさせられました。
- ・自己決定できるよう、様々な提案ができるよう更に知識を深めていく。
- ・残存能力活用支援、自己決定支援、あたりまえの生活支援、分かっているつもりだが、長い間現場にいて勝手に自己マニュアルを作っていたと思う。反省です。
- ・権利は目に見えないものであるからこそ、本人を尊重して話し合いをもつ事が必要であると思います。

- ・時間の経過と共に忙しさに負けて忘れがちになるため、定期的に振り返りが必要と思う。
- ・どうしても経験で見えてしまうことが多いので、「その人をそのまま見る」ことが大切と思いました。
- ・個人の権利を尊重していく意識は強く持ちつつ、法令や制度についても学び、明るくなっていくことが必要と思います。
- ・対話の能力を学びたい。その人の思いや今までの生活、考えていることを聞き出して、決定できる材料にしたい。
- ・利用者一人一人を知る。広く話し合う。問いかける。
- ・人として、どのように生きて、老いて、死んでいこうと考えているのか、相手の思いを汲み取っていききたい。それらをアセスメントに落とし込むことに労力をかけていくこと。
- ・権利と相手の尊重による矛盾を解消できるようにしていきたい。
- ・他の包括や行政、関係機関と共有したいので勉強会が行えるよう、学びを深めようと思いました。
- ・何度も何度も振り返れるよう学びたい。また、職員にも学んでほしい。
- ・毎日の積み重ねが必要。
- ・〇〇したい、〇〇したくないの権利が、本人と家族とで相反する時、どのように支援を考えたら良いのか、学びたいです。
- ・研修等に参加して、自分を振り返る事で、自分の行動が「普通」であったか、考えることは必要であると思いました。
- ・意思決定がしっかりできない人への支援のあり方
- ・権利が守られない阻害要因や環境について
- ・業務に追われ権利について忘れてしまっていることも多くあったので、もう一度考えをあらためることができる。
- ・「権利」を守るために自己決定支援することは、時として困難なこともあります。信頼関係を築くのにも時間も必要なことも。
- ・ケアマネとして、ケアマネジメントの過程が本人の権利の尊重となっているか？再確認が必要と思う。
- ・気づいた違和感を掘り下げて、自分なりの考えを持っていきたい。
- ・様々なケースと権利についての問題がこれから先も出てくると思うので、今後もできるだけ多くの研修などに参加し、学んでいく必要を感じた。
- ・個人の意思を尊重して行く事を改めて考える。
- ・人が生まれながらにして持っている権利と、権利と発生する義務、その違いについて学ぶことができた。
- ・当施設は古く措置制度の時のような考えが根強く残っている。利用者の権利、あたりまえの権利とは何なのかと、施設全体で考えていきたいと思います。研修内容、資料を基に施設研修し、少しでもよい施設に近づけるようにしていきたいと思います。
- ・あたりまえの権利が自分にもあてはまる事を知り、自分の事や周りの人の事を考えていく事が必要だと感じた。
- ・人の基本的欲求をもう一度読み直したいと思います。
- ・「権利」について、忘れてしまいがちな事なので、学び直す必要があると感じた。
- ・本人へのアセスメントの大事さを感じた。どうやってアセスメントしたら本人の気持ちやできることをうまく汲み取れるのか。
- ・くり返しくり返し、学び考え、実践していく必要があると思いました。

- ・多少のリスクがあったとしても、本人の意向を尊重できるハートの強さ、リスクへの対応力を身につけなければならないと思う。
- ・利用者のあたりまえを守る事は、話し合いを密にしていく事が大切。
- ・基本欲求の再構築。一人の人として、普通の考えがある事を考え、そのままを見るようにする。
- ・普通とは何か、あたりまえとは何か、まだよくわからない部分が多く、本人や同僚と対話を重ねていきたいと思いました。
- ・個別化・個別対応 → 類型化・経験則に頼らずその人を見ること。
- ・一人の人を観察しマニュアル化せずに見るということ。
- ・一人一人全員違うのだと思い、考えること。
- ・「普通」のことをあたりまえにするということ
- ・自分が行っていた対応を振り返り、どの場面の何が利用者の権利を侵害していたかを確認し、それをもとにどう対応するのが適切だったかを他の職員と共有していく必要がある。
- ・施設で、いいケア報告書を書いてもらっていますが、それをより活かせる方法を考えていきたいと思いました。
- ・得る側、得られる側に限らず、同じ一人の人間として人とどう向き合うかを考えたい。
- ・自己決定、意思決定が難しい方の支援
- ・忘れてしまう学び。何度でも研修したい。
- ・対人援助や基本的欲求について
- ・自分としての普通があたりまえなのかを、考えながら行動する。
- ・その人(住民)の権利を守っていくために、庁内でどのように同じ方向を向いて取り組むことができるか、話し合いのスキルを学んでいきたいと思います。
- ・受け側と提供側に差が出てはダメ。あたりまえがあたりまえである事。
- ・自分の事は自分で決める。一人の人として見る。
- ・(憲法) 13条, 25条を確認する。
- ・利用者の尊重だけではなく、一緒に働くスタッフを尊重するために、自分がどう行動し考えていくべきか。
- ・“自分のコトは自分で決めたい”というあたりまえの事が、支援の場においては出来ていない。それとなく自分の思う方へ誘導してしまう事も多いと思う。再度自己決定の尊重をしていく必要がある。
- ・権利擁護をスタッフ間で学ぶ機会を多く設けるようにして、今後も共有していきながら、利用者の意思決定を尊重した生活ができるように支援していきたいと思います。
- ・権利と義務、義務を伴わない権利についてさらに、知識や意識を高めていきたい。
- ・その人その人の「普通」の違い
- ・認知症が強い方への支援の仕方
- ・経験とマニュアルにあてはめず、一人の人として話し合い満たしていきたい。
- ・職場でのユニットケア
- ・施設の中での変な介護ルールがある。知らないうちに権利侵害をしてしまっていることに気付くこと(どうしたらいいのでしょうか…)
- ・自己決定支援の方法(セルフネグレクトへの対応 etc)
- ・セルフネグレクトの対応について学びたいです。
- ・基本的人権の尊重について

- ・その人が自己決定できるためにも、話し合いが重要であるので、コントロールするのではなく、ごく普通の言葉で伝えて、話し合いを持つことが、更に学ぶことです。
- ・入居生活を支援するにあたって、消極的権利は守られていても、積極的権利は、いかに生かせるかによって個別ケアの充実につながると思われる。特別なことを支援しているのではなく、普通の生活を支援して、提供していくということを常に考えていくべきだと感じた。
- ・「普通」とは何かを考えていきたい。
- ・自己決定できない方の権利主張、意向をもっと取り入れていけるにはどうしたら良いか、現場で考えていきたいです。
- ・その人の権利を自分の中で勝手に決めつけていないか、今後の実践の中で確認し学んでいく必要がある。
- ・忙しい時ほど立ち止まる。
- ・自分は個人として見られたいのに、利用者のことは一括りにしていた部分があったので、自分に置き換えて考えていきたい。
- ・ご家族にも利用者の思いを考えていただくようにするには、どのようにしたらいいのか、親のことを考える時が早い時期から行われるといいと思う。
- ・対人援助について、学びたいと思った。
- ・人を相手に仕事をする人の役割とは何ができるのか…？
- ・セルフネグレクトについて勉強したいと思いました。
- ・権利を害する事のないケアをしていくには、どんな事が必要になってくるか、深く追求したいです。
- ・他人の生活を認めること。苦手な人や嫌いな人を認めて、よい関わり方を学んでいくこと。
- ・今回の研修に繰り返し参加する必要性を感じました。
- ・個人の尊厳について、そのままの一人一人をみて、経験、勝手なあたりまえ、普通を普通だと一人で判断しないように実施してみたいです。
- ・意思決定が難しい方への意思決定支援
- ・意思決定、権利擁護
- ・意思決定支援をする時に阻害しないで支援する方法
- ・本人が普通に生活が送れる様に勉強していきたい。
- ・医療職として学んできたが、地域、福祉社会に対する知識が浅いので、福祉系の研修に参加し、学びを深めていきたい。
- ・あたりまえとは何ぞや？を持ちつづけ、学んでいく必要があると考える。
- ・個々として対応、個人として尊重、他の人と一緒にされたくない。類型化されたくない、しないと言うコト。
- ・高齢者、障害者を支援するための行動規範
- ・「普通」に考える。「個人として」の自立支援を行う場合でも、やってしまう事によってその方の能力を奪ってしまうので、ご本人のケアの前にまずは職員は満たされているのか？自分がまずどうなのか、会話ではなく対話で、希望をまくだけでなく話し合いの場を設ける事が大事である。
- ・あたりまえの事をあたりまえに出来るように、スタッフと一緒に勉強していかなければならないと考えています。
- ・「あたりまえ」が麻痺してしまわないように、その都度、他の人の意見に耳を傾けていきたい。
- ・「権利」の考え方とその事を実践できる環境があって、初めて権利擁護がなされる。人員の問題等環境が整っていない場合の権利擁護をどうするか。

- ・普通のことの定義の難しさを学びました。利用者だけではなく、周りの人達の普通と自分の普通、学び続けなければ元に戻ってしまう事です。
- ・その人その人に合った支援とは何か、今のサービスがその人に合っているかについて考える事が必要だと思います。
- ・自分は配慮されているという事を理解し、ご本人の配慮されていない事を考える。
- ・スタッフへの伝え方、接し方
- ・現場で権利が守られているか（利用者）確認する。
- ・知識のアップデートを含め、定期的に考える場面を作ることが重要だと考える。
- ・個人ということについて、もっと学んでいく必要があると感じました。個人を見ているようで、一括りにして見てしまっている部分もあるので。
- ・何が“あたりまえ”なのかについての制度や法律の知識も必要だと感じました。
- ・話し合いのスキル
- ・自分のコトは自分で決めたい筈なのに、他人のコトは自分のいい様に誘導していく。よりよいケア、その人が人として生きていく上で必要なケアも自分の都合になってしまうのか？入浴拒否、食介拒否、さわやか拒否 etc. 言葉たくみに思い通りの介護になってしまう？？利用者の気持ち、Faの気持ち。
- ・利用者との間、関係者の間、どちらにもあてはまるが対話する力、コミュニケーション能力を学んでいくことが必要と感じました。
- ・ジレンマに対してどのように対応していくか、意見交換を行いたい。
- ・すべてがキレイ事でないと考え、現実には落とし所か、行動・言動に根拠が必要と考えることは必要かどうか。
- ・あたりまえを、自分自身で決めつけず、絶えず周囲のチェックも受けるべき。
- ・「対話」が1つの方法なのかなと感じましたが、「対話」についてもっと学んでいきたい。
- ・その人一人一人によって考え方やニーズは違うので、その人に合ったニーズ等をいかに見つければいいのかを学んでいきたい。
- ・自身の考え方。対応の仕方。話をきく。利用者の意思決定を助ける。コミュニケーション麻痺にならないようにする。押し付け、権利侵害にならないようにする。
- ・経験を重ねていく分、落とし穴ができてしまう。形にはめ、個人を見落としてしまう危険がある。改めてスタッフは、考えるべきであると思う。
- ・常に自分が行っている介助や関わり方がその方に適しているのか？を考えながら行わないといけないうと更に思いました。
- ・権利については奥が深いので、研修の機会に参加し、講義やまわりの意見を取り入れる。
- ・あたりまえに関わり、生活することは、自分も満たされていることが前提であることを学びました。又、一個人として自分も尊重されたいと思うので、人にも礼儀や尊重を重んじているか振り返りが行えました。更に実践を重ねていきたいと思います。
- ・「礼儀」と「尊重」。意識して対応していると自分に返ってくる。
- ・本人に対して良かれと思って行ったことでも、相手にとっては、自己決定の場を失っていることもあり得る。残存能力活用支援、自己決定支援、あたりまえの生活支援を常に考え、今後も学んでいく必要があると、このセミナーを通じて強く思いました。
- ・普通のことをもっとあたりまえに日々考えて仕事に従事する。
- ・事業所全体として「権利」に対する意識を高める方法や研修の方法を学び、考えていく必要があると感じます。

- ・個人個人の考えが違うので、あたりまえとは何かも違う…多方面から考えられるような思考。
- ・自分は普通じゃないと思い直すプロセス。
- ・「自立」と言っても一人一人自立の度合いが違ってくるので相手に合わせる。
- ・その人の権利と支援について、講義の中で話しを聞いていても何となく難しく感じた。大ざっぱにしか理解出来ていないと感じたから。
- ・デメリットを見がちになるがメリットを考えられるようなリフレーミングの視点。
- ・自立支援を念頭における（意識）できる支援プロセスに生かす方法。
- ・個人の権利を大切にす一方、周囲の人々とのすり合わせをどのようにしていくのか？その中で個人がその人らしい決定が出来る様な話し合いの仕方が重要。そのスキルをもっていきたい。
- ・対立する意見があった時に、本人を入れて対話を続けるコーディネート力。
- ・いいケアをするには関わるスタッフが最も大事という事が分かりました。
- ・意思決定支援について、又、本人との会話の中から本人の意向を読み取る力。
- ・利用者が個々に持っている権利を個人としてとらえること。
- ・利用者の思い、決定を尊重するために、地域の社会資源だけでなく、ご家族の方にも間違いのないメリット、デメリットを伝えられるよう知識を受ける必要があると思います。
- ・法律はもちろんですが、一人の人としてのあたりまえ（個人それぞれですが）、捉え方を学んでいきたいです。
- ・潜在的ニーズの把握能力と先を見通す力が必要だと思います。
- ・権利と権利擁護の意味の重要性、また、あたりまえの権利が大切だと思います。
- ・「権利」と難しく捉えてしまうが、「あたりまえのこと」と考えることを、その都度考えて対応していく。
- ・一人ひとりのバックグラウンド（今はまだ不十分。それを理解し、その人に合わせた支援の提供）
- ・今は分かった気持ちでいても、時間が経つと権利や普通であることがどんな事だったかを考える事を忘れてしまったり、意識が薄れてしまうことが懸念され、時々振り返ることが大切だと思う。
- ・制度についてもう少し学んでいきたいと思いました。
- ・相手と礼儀と尊重を持って接し話し合う事が大切だと思いました。
- ・慣れてくることで生じるリスク、失敗に気づけるように、この「権利」という所で、スタッフ全員が認識してケアに当たることで、より良い生活を送ってもらえるよう、気づきを共有することの重要さを考えていきたい。
- ・言葉として難しく、どうしても現場に落とし込むことが難しく、自分一人で実践して行く勇気が出ないので、次の一歩。
- ・認知症の方が、自分で「決められる」様にする為、バックグラウンドを掘り下げる必要があると思う。バックグラウンドアセスメントについても、しっかり学びたい。又、人との関わり方についても学ぶ必要がある。
- ・入居者だけでなく、スタッフとの関係を良好なものにしていきたい。対話を重ねて一人一人を尊重していきたい。
- ・自分にとっての普通、あたりまえが他の方にとってはどうなのか、考えていく必要がある。
- ・いかに経験でその人その人を型にはめて考えてきたか、気付かされてよかったと思う。似たような方がいても、別人であることには変わらない。
- ・グループワークも必要ですが、具体的な事例もあると参考になると思う。
- ・自分の意見に合わない人を「ダメな人」などの扱いを、家族がしていることも多く感じる。本人に関わる人たちが本人の意向をきいていく必要があると感じた。

- ・自己決定していけるよう、きちんとその人と話し、提案していくこと。
- ・対話力。相手の立場になって考える力。
- ・日々、権利を意識しながら、何を望まれていて、どのようなことができるか、その人にとっての普通について考えていくことが大切だと感じました。
- ・相手の気持ちを考えて行動すること
- ・権利と義務 ⇔ 理想と現実
- ・自己決定支援について更に考えていきたい。
- ・“普通”，“あたりまえ”は日常的に使っていたが、どんなことかと問われると答えが出なかった。今日学んだことを自分の中で整理していきたい。
- ・法律を読み解く能力を高めたいと思います。
- ・権利擁護, 成年後見制度
- ・認知症の人に対する自立支援
- ・実践するにあたりロールプレイなど行う他, 他の人とよく話し合い「普通」の状態を考えていく。
- ・常に意識して対応していくことが必要
- ・利用者・家族・支援者それぞれが話し合っ決めて行くために必要な事すべて。
- ・本人の判断力が衰えている場合の自己決定支援。どう働きかけたら, 衰えている部分の杖になれるのか。
- ・法, 制度
- ・施設の中で慣れ合いになっている。礼儀, 尊重は大事。
- ・権利+その中に有る他者との関係性
- ・『普通』について, 自分の普通ではなく, 世の中の普通, ご本人の判断基準。
- ・無意識の内に相手の権利の妨げにならないようにする。
- ・社会的弱者に権利としてできるサービスを把握し, 使い方を覚えたい。
- ・コミュニケーション取るのも難しい時代。ハラスメントになるので, 近寄らず, 遠からず, 自己防衛に注意して生活する。
- ・様々な制度や協力機関, 社会資源について
- ・様々な業界（福祉外）のスタンダードを学ぶ。そこから普通についてさらに考えていく。
- ・自分のあたりまえと他の人のあたりまえが違うので, 考えてその利用者に合ったものを探して提案できればと思う。

4 その他, この研修で感じたことなど

- ・色々な職種の方と対話が出来た事が刺激になりました。
- ・大橋先生の声のトーンと, はっきりと言いきる説得力が良かったです。聴いていてなるほどな!!と思う内容でした。
- ・自立支援, 自己決定について難しいこともあるが, 基本を忘れないようにしたい。
- ・あたりまえの権利に, あたりまえにサービスが提供できる様にしていきたい。
- ・日頃の業務の中で経験を積みば積むほど型にはめてしまいがちになるという事を痛感しました。初心に帰り常に相手の立場に立った支援をしていきたいと思います。
- ・他職種のグループワークでさまざまな意見を伺うことができ, お互いに悩んでいる事は同じなのかなと思えた。

- ・短い時間の中で反省する点がいくつかありました。ここで学んだことを頭に入れて明日から又仕事に活かしていきたいと思いました。
- ・全員が互いのことを思いやり、性善説で進んで行ければ本当に良いと思う反面、それだけでは難しいことの方が今の世の中には多いと思うので、それがジレンマです。それでも根本にはその思いが無ければいけないとも思います。
- ・生活の中で不自由を感じているからとか、病気だからとかは関係なく、普通の生活ができるように支援したい。
- ・現場で「権利擁護とは」のような周知の場を設ける際の、説明の仕方、伝え方、視点の違いを実感したので、参考にできるところは取り入れられたらと思いました。
- ・分かっているつもりでも分かっていないことが多いと思う。管理する立場として、仕事の場の雰囲気にもっと敏感になって、利用者にとって居心地の良い環境を作っていきたい。
- ・パターン化せず、個人の対話をし、気持ちを汲み上げる事。
- ・自分が権利侵害していないか確認しながらすすめたい。
- ・知らず知らずに権利を侵害していることもあるので、常に権利擁護を意識して、感覚が麻痺しない様に気を付けたいと思いました。
- ・他の業種の人のお話が聞けて参考になりました。
- ・他の職種の方のお話を多く聞くことができた。
- ・分かりやすいお話をありがとうございました。「類型化して定型的処理ができる」というところに気を付けて行きたいと思いました。方程式にあてはめて処理しないようにしたいと思います。
- ・実際の業務が権利擁護となっているか考えさせられた。自己満足のケアマネジメントだったのではないか？と思った。
- ・反省することが多く耳が痛かった。今日の種を育てられる様に向き合いたい。
- ・色々な分野の参加者の方がいて意見が参考になった。
- ・グループワークで様々な意見を聞いて勉強になりました。普段の支援について見直していきたいと感じた。
- ・人が生まれながらにして持っている権利と、権利と発生する義務、その違いについて学ぶことができた。
- ・当施設は古く措置制度の時のような考えが根強く残っている。利用者の権利、あたりまえの権利とは何なのかと施設全体で考えていきたいと思います。研修内容、資料を基に施設研修し少しでもよい施設に近づけるようにしていきたいと思います。
- ・権利も普通を守るという事も、まずは考える事が大切だと感じたので、今後も色々考えながら仕事をしていきます。
- ・利用者だけでなく、スタッフ間とのコミュニケーションについても振り返ることができました。
- ・自分の仕事を振り返る機会になった。「人としてあたりまえのこと」を忘れず支援に当たりたいと思う。
- ・本人の権利を尊重することはあたりまえのことだが、それによって他の人の権利が奪われることもあるのでは？と感じた。自分の母は、祖母が家にいるがため外出できず、睡眠時間も削られていた。
- ・「本人主体」を忘れないこと。
- ・経験がマニュアルになりがちという先生の言葉にハッとした。一人一人に目を向けて日々の業務にあたりたい。
- ・個人個人違う利用者の考えを尊重していく。
- ・今までのケアが権利にどれほど関わっていたかを深く知る事ができました。

- ・以前,セルフネグレクトの研修をしたときでしたが,その当時受けていないため,また同じような研修をしていただけると嬉しいです。
- ・尊厳を守る事が権利擁護にもつながる。「普通」の生活が送れるように一人一人の置かれている状況を見ていくようにしたい。
- ・自分を見直すことができ,スキルUPにつながった。
- ・社内研修で使用したいと思います。
- ・本日は大変ありがとうございました。勉強になりました。
- ・昨年よりも大橋先生の話しが良かった。
- ・常に考えること,マニュアルに頼らないこと,経験に頼りすぎないことが重要だと感じた。
- ・ありがとうございました。
- ・「権利」の再認識,「反省」山ほどあった。
- ・GWで演習をした方が,講義を聞いてるだけよりいい。
- ・勉強になりました。
- ・今後もよろしくお祈いします。異業種の人とGWできて良かったです。
- ・普通が麻痺することは怖いこと。
- ・個別対応,個人の尊厳,一人一人をきちんと見る。こちらの側の都合で行わない。
- ・礼儀と尊重を職場で話し合いたい。
- ・自分のことは自分で決めたいんだ,ということを常に考えていく。
- ・他職種の方と権利について意見交換する場を設けて頂き,ありがとうございました。改めて福祉の仕事に対しての新鮮な気持ちを感じることができました。
- ・支援をしていく上で,一度は学んだはずの事であったが,現場に入り,頭から離れてしまっていたように思う。再度学び直し,また事業所内でも研修の場を設けていきたい。
- ・他職種の方の意見や考えをきくことができ,良かったです。まだまだわからないこともあるので,今後も学んでいきたいと思います。
- ・大橋先生の弁護士経験談を拝聴できたことはとても貴重な財産となりました。どうもありがとうございました。
- ・色々な職業の方と話し合え,いろいろな考え方が聞けてとても良かったです。
- ・分かり易い言葉で話して頂き,又機会があったら参加したい。
- ・「普通」って難しいと思いました。
- ・日頃の業務でもしかして…と思うところがありました。常に「普通」や「権利を侵害する危険性があること」を理解しておくことが必要だと感じました。
- ・「普通」とは何か,改めて考える機会をいただきました。今後の業務に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・その人を尊重することは分かっている,本人ではなく周りを尊重していた面もありました。
- ・話し合いの重要性が分かりました。
- ・実際に心に余裕がないと,マニュアルに頼りきったり,独断に走ることがある。一度立ち止まってみるということは大事で,話し合いをすることを忘れずにいたいと感じた。
- ・自分が満たされていないとまわりの人たちに優しくできないし,スタッフの関係性も大事だなと感じた。自分都合のケアをしていないか考え,見直していきたい。
- ・礼儀と尊重なしに介護の仕事はできないと思いました。その方の人生に関わり,できない部分をお手伝いさせていただいているという気持ちを忘れることなくいたいと思います。
- ・経験は良い事もあれば危険な部分もある。型にとらわれず一人の個人として向き合う。

- ・頭では権利に関して分かっているけど、実際相手はどのようなことを望んでいるのか等あいまいになってしまっているのが注意したい。
- ・あたりまえの事が慣れてしまい、あたりまえではなくなっている事を感じました。
- ・日々のサービスに対して考えさせられた時間でもありました。
- ・普通でない老後を送るのは嫌だな…。
- ・初心に戻る事ができました。研修の度に気づかされるのに、業務の中で忘れてしまう事があって、また初心に戻れる機会を与えて頂いてありがたいなと思いました。
- ・グループワークで他の事業所の方々のお話を聞いて参考になったり、共感できる所がありました。
- ・権利や対人援助について振り返る良い機会になりました。
- ・自分に置き換えたら、普通の考えが相手側に立つとわがままにとらえられる介護の現実を感じとれました。
- ・自分の思い等が利用者に押しつけになっていないかや、振り返りとなりました。
- ・“あたりまえ” “普通” は、自分の感覚と相手の感覚とちがうこと。相手のものさしで考える必要があると思いました。
- ・「普通」でないところにいると「普通」である状態が麻痺することで権利侵害につながっていないか？仕事上で意識していきたいと思った。
- ・関わるスタッフ一人ひとりが大切に尊重されているのが大切ということが、職場でより安心して働けるということ。自身の何気ない言動が周囲の人に影響を与え、利用者に影響が出ることをないように気をつけたい。
- ・職種の違う方々とグループワークができ、良い情報交換になりました。又、専門の方から人権、擁護についてかみくだいた話が聞け、とても参考になりました。
- ・対人援助に就いている職種が多種多様であることを改めて実感できたこと。
- ・利用者本位のサービス提供ができてあたりまえであり普通のこと。
- ・振り返りをしながら職場でテクニックではなく、1つ1つケアの中でリスクも踏まえながら行き過ぎた安全主義に陥らないように気をつけたい。
- ・本人抜きの話合いをしているようであれば、一人一人の権利は守れないと感じました。大変分かりやすく良い勉強会でした。ありがとうございました。
- ・分かっているようで分かっていない部分が多かった。その人のためには実際その人のためではなく、自分本意なことが多く、支援者も権利を侵害することにもつながってしまうため注意していきたいと思った。
- ・普段気づきにくいことに気づかせてもらえて良かった。
- ・理想と現実の差はまだ多く存在する。
- ・経験があると過去の事例に頼ってしまい目の前の個々の人の訴えを見逃してしまう。
- ・スタッフがより利用者によりそってサービスを提供したいです。
- ・普通が普通である事が難しいと感じました。
- ・普通にさせていただくことに対して自分がどのようにすれば良いか考えることが大事と感じた。
- ・グループワークを通して、他者の意見が聞けたことが良かった。
- ・色々気づかせて頂いた研修になりました。
- ・権利擁護は難しいと思っていましたが、普通、あたりまえについて学び、はっとさせられました。
- ・職場環境も大切
- ・他の現場の方も同じ様な悩みを抱えている。それを強く感じた。あたりまえのコトがあたりまえではなく、「特別なコト」と思うコトが大切。施設へ持ち帰り情報として発信していきたい。

- ・日々の業務の中で、自らの対応や支援が適切かどうか、考えなおす機会になりました。
- ・グループで話しやすい空気にしていただけたのが、ありがたかった。
- ・自分の価値観を押し付けない、話し合いの中で常にリニューアルしていくことが大切と思った。
- ・「権利」について「尊重」について、常に考え続けていかなければならないのかな？と、感じました。
- ・もう少し時間があればグループでの話をしやすく、よりよい意見を聞けたと思った。
- ・アルコール依存、ギャンブル依存、引きこもり歴 20 年（家庭内暴力有）の子、借金ぐせのある人、危険な思想を持っている障害のある人の自己決定（尊重）について改めて考えた。
- ・グループワークによって、他スタッフの意見をきくことができました。もっと話を多く聞きたかったです。
- ・より良いケアをする。職員間一人一人が尊重され、楽しく仕事ができる大切さも利用者につながるものである。
- ・権利擁護の研修には初めて参加させていただきました。具体的な内容の話しで参考になりました。
- ・とても学びの多い研修でした。来て良かったです。
- ・専門性も大切だが、相手に合わせた柔軟な対応の必要性。押しつけは NG。
- ・一人一人価値観が異なるのは当然だが、グループでの話し合いの場を通じて、自分とはまた異なる考えを身につけることができた。
- ・司会の荷が重い。
- ・色々考え話し合う事ができるようにしたいと思いました。
- ・もう少しレジメのあとのページのお話もききたかったです。
- ・日頃の業務の振り返りができました。ありがとうございました。
- ・グループの人達の職場の環境の良さを聞き、少しびっくり。正直、その様な環境を作ることは難しいと思っていた。
- ・自分の人生に関して、選択と決定を自ら決めたいと思っている。とても勉強になりました。
- ・自分が思っている悩みを、他の業種の方も同じような事を悩んでいるという事を感じました。
- ・自分の未熟さを痛感しました。一人の人としての関わりができていませんでした。
- ・どれだけのスタッフがあたりまえのことをあたりまえに考えることができているのかは、正直疑問だが、今回の研修を通して、ひとりでも多くのスタッフに伝達できたらいいと思う。
- ・それぞれ違った意見、違う部署で交換はとても有意義であったと感じました。
- ・言葉で分かっていることを、実践につなげられるようにしたいと思います。話し合い、意思の尊重を大事にしていきたいと感じました。
- ・グループワークで他の人の考えを聞け、良い機会となった。
- ・相手への接し方一つで権利の侵害は簡単に出来てしまうので、常に考えながら話し合っていく事の大切さに気づかされました。
- ・とても有意義な時間でした。学生時代や勉強・学びとして頭では理解していたつもりの権利についてでしたが、仕事として関わっていくうちに忘れていたことがあったな…と、感じました。
- ・自分の気持ち、自分の生活に置きかえて相手、その一人一人を大切に観て対応したい、一步一步進みたい。
- ・普段行っていることに関しての疑問が多くなった。求められていることと、それにむけて対応していることは…？
- ・自分の気持ちを相手に押しつけるのではなく、相手のことを尊重していきたいです。
- ・普通、あたりまえというものの難しさを考えさせられました。

- ・やはり、普通と麻痺は、こわいと思った。あたりまえになってしまうのがとてもおそろしく感じた。
- ・慣れてくると類型化してしまう。経験に基づいてすぐ結論を出してしまうことは、たしかに危険だと思った。
- ・個人として大切にされているという思いをもってもらえるよう、研修内容を活かしたら良いと思う。
- ・マニュアル通りの対応にならないように、気を付けて仕事をしていきたいと思いました。
- ・全てのことが本人の思うようになるわけではないが、だからこそその人と話し物事を決めていく課題が大切なんだと感じました。
- ・普通が一番難しいと思いました。自分の普通に麻痺しない様に、他者の意見を聞くことが大事と感じた。
- ・一人で判断は危険な部分もあるので、振り返りながら行っていきたいと感じました。
- ・権利について、考えれば考えるほど深いと感じた。
- ・理論と実践はちがう！
- ・大変難しいが、普通、あたりまえとはどういう事なのか、という事を初めて発言した様な気がします。
- ・経験を積む中でのリスクもあること、良かれと思っての言動が相手にとって本当はどうか、本人の側に立って考えることを忘れずにいたい。
- ・同じグループの参加者の方々より様々な話しや考え方を聞くことができ、とても参考になりました。
- ・「普通」を考えないと麻痺をしてしまう。今、自分がやっていることが「普通」のことなのか、意識して支援をしたいと思います。
- ・協議、話し合いの大切さ。
- ・住民票がある利用者に市報が届いてました。なぜ複数届いてるのか知らなかった。
- ・先生方の話を聞いて反省すべき点がたくさんありました。持ち帰り、スタッフと話し合います。
- ・今まで以上にご本人の権利について、説明できるようにしたい。（家族に対して）
- ・「仕事の慣れ」によって、相手との関係と信頼をくずさない。
- ・根元全てにおいて長寿国の医療の進歩に世の中と社会が、同じ様に進歩していないと思う。
- ・毎日受けたいほど勉強になりました。
- ・事例検討会のあり方を見直す。あくまで（事例）ということを毎回意識する。認知症≠〇〇
- ・自分は出来ていたつもりでいても、毎日の利用者との関わりの中で見失っていたことがあるな、と思いました。
- ・普通の生活って幸せです。私自身交通事故で寝たきり→リハビリを経験した時に普通に歩ける、普通にトイレに行ける、一人でお風呂に入る…全部が実はすばらしく幸せなんだなと思いました。今日は普通という言葉が出たときに、その時の思いを思い出しました。あたりまえが出来なかったときあたりまえにしてあげたいです。
- ・普通、あたりまえが考えてみると難しいものだと感じた。自分のグループにはいろいろな職種の方がいたので、たくさんのお話を聞き、参考になった。